

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-149209

(P2017-149209A)

(43) 公開日 平成29年8月31日(2017.8.31)

(51) Int.Cl.

B 6 2 J 19/00 (2006.01)

F I

B 6 2 J 19/00

テーマコード (参考)

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 20 頁)

(21) 出願番号 特願2016-31944 (P2016-31944)
 (22) 出願日 平成28年2月23日 (2016. 2. 23)
 (11) 特許番号 特許第6105110号 (P6105110)
 (45) 特許公報発行日 平成29年3月29日 (2017. 3. 29)

(71) 出願人 506061705
 平山産業株式会社
 大阪府四条畷市岡山2丁目1番24号
 (74) 代理人 110000947
 特許業務法人あーく特許事務所
 (72) 発明者 平山 林八
 大阪府四条畷市砂3-3-1 平山産業株式会社内

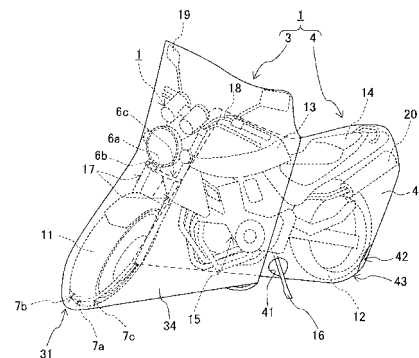
(54) 【発明の名称】 二輪車用のカバー

(57) 【要約】

【課題】 二輪車用のカバー 2 において、二輪車 1 に比較的タイトにフィットするスリムな形状にできるようにしながら、二輪車 1 に 1 人で比較的簡単に装着可能とする。

【解決手段】 カバー 2 は、二輪車 1 の前輪 1 1 側を覆うためのフロント部 3 と、二輪車 1 の後輪 1 2 側を覆うためのリア部 4 とを含む構成とされている。フロント部 3 およびリア部 4 には、それぞれ個別に二輪車 1 に装着した状態を保持するための固定手段 (5 a, 5 b, 5 c, 6 a, 6 b, 6 c, 7 a, 7 b, 7 c, 7 d) が設けられている。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

二輪車の前輪側を覆うためのフロント部と、前記二輪車の後輪側を覆うためのリア部とを含み、

前記フロント部および前記リア部には、それぞれ個別に前記二輪車に装着した状態を保持するための固定手段が設けられている、ことを特徴とする二輪車用のカバー。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の二輪車用のカバーにおいて、

前記フロント部と前記リア部とは、前記二輪車の前後方向の所定領域でオーバーラップするように設定されている、ことを特徴とする二輪車用のカバー。

10

【請求項 3】

請求項 2 に記載の二輪車用のカバーにおいて、

前記フロント部は、その後部および下部が開放されているとともに、前部が前記二輪車の前輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記前輪からシートの前端に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されており、

前記リア部は、その前部および下部が開放されているとともに、後部が前記二輪車の後輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記後輪からシートを経てフロントフォークの手前に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されている、ことを特徴とする二輪車用のカバー。

20

【請求項 4】

請求項 3 に記載の二輪車用のカバーにおいて、

前記フロント部の固定手段は、前記後部の開放部分に設けられる胴部絞りベルトと、この胴部絞りベルトの一端側と他端側とを連結可能に当該一端側および他端側に設けられるプラグおよびソケットとを含み、

かつ、前記固定手段の使用時には、前記プラグまたはソケットを前記二輪車の前輪と後輪との間の下部空間に前記二輪車の幅方向一方から他方へ向けて差し入れて前記ソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記胴部絞りベルトを前記二輪車の前輪と後輪との間に巻き掛ける状態にする、ことを特徴とする二輪車用のカバー。

【請求項 5】

請求項 3 または 4 に記載の二輪車用のカバーにおいて、

30

前記リア部の固定手段は、当該リア部の左側構成面または右側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられる上側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられかつ前記上側のプラグに連結可能とされる上側のソケットと、前記左側構成面または右側構成面の前端の下側に設けられる下側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の下側に設けられかつ前記下側のプラグに連結可能とされる下側のソケットとを含み、

かつ、前記固定手段の使用時には、前記上側のプラグまたはソケットを前記二輪車のフロントフォークの左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記上側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前端の上下方向中間部位と前記右側構成面の前端の上下方向中間部位とを前記フロントフォークの長手方向中間部位に巻き付ける状態にし、

40

前記下側のプラグまたはソケットを前記二輪車の前輪の前下部の左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記下側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前下部と前記右側構成面の前下部とを前記前輪の前下部に巻き付ける状態にする、ことを特徴とする二輪車用のカバー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、二輪車を覆うためのカバーに関する。前記二輪車は、例えば自動二輪車または自転車等が挙げられる。

50

【背景技術】

【0002】

従来のこの種のカバーとして、例えば特許文献1, 2に記載されているようなカバーが知られている。

【0003】

このカバーは、下側が開放されたワンピースの袋とされている。このようなカバーは、一般に、二輪車への装着を容易とするために外形サイズを比較的大きく設定しておき、雨や風等によって全体がバタつかないようにするため、ならびに車体から簡単に外れないようにするために、固定手段を装備するようになっている。

【0004】

上記特許文献1では、前記固定手段として、絞り紐と、面ファスナーとを用いている。前記絞り紐は、カバーの下側開放部分の外周縁に設置されていて、車体後端側で絞り操作することによって前記下側開放部分を窄ませるようになっている。前記面ファスナーは、カバーの下側開放部分において車体前後方向の中間部位に設置されていて、当該下側開放部分を車体幅方向に狭めるようになっている。

【0005】

上記特許文献2では、前記固定手段として、絞り紐を用いている。この絞り紐は、カバーの下側開放部分の外周縁に設置されていて、車体後端側で絞り操作することによって前記下側開放部分を窄ませるようになっている。

【0006】

その他にも、例えば特許文献3には、二輪車の上下左右の全域を覆うようにするカバーが記載されている。このカバーは、装着前の状態で矩形状に形成されており、それを設置場所に広げた状態で敷いておき、当該カバーにおいて車体幅方向のセンターに二輪車を載せてから、当該カバーにおいて車体幅方向の両端を二輪車の上方で突き合わせるように2つ折りにし、この突き合わせ部分をスライドファスナーで閉じることにより、二輪車に装着するようになっている。

【0007】

さらに、例えば特許文献4には、自動二輪車のマフラー部分を覆うようにしたバイクマフラー用熱カバーが記載されている。このカバーは、自動二輪車の車体前後方向の後半領域のみを覆う外形寸法の袋とされていて、耐熱性材料で形成されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0008】

【特許文献1】 実用新案登録第3112350号公報

【特許文献2】 特許第4864601号公報

【特許文献3】 実用新案登録第3040524号公報

【特許文献4】 実用新案登録第3189859号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

上記特許文献1, 2は、大型自動二輪車等のように車体前後方向の寸法が大きい場合だと、二輪車の前輪側にカバーを被せておいて、作業者が二輪車の側方から後方に移動しながら二輪車の後輪側にカバーを被せるように作業しなければならないので、二輪車にカバーを1人で被せることが難しいと言える。

【0010】

また、上記特許文献3は、カバーを地面に広げた状態で二輪車を載せる際に、仮に前記載せた位置がカバーにおける車体幅方向のセンターから左右方向にずれてしまうと、その後でカバーを2つ折りにする作業が困難になるので、二輪車をカバー上に載せる作業をやり直す必要がある等、面倒であるとともに、比較的大きな作業スペースを確保する必要があると言える。

10

20

30

40

50

【0011】

さらに、上記特許文献4は、二輪車の全体を覆うものでなく、バイクの後半領域のみを覆うだけの外形寸法になっているために、その他の部分を覆うには、上記特許文献1～3のようなカバーを用いる必要がある。

【0012】

このような事情に鑑み、本発明は、二輪車用のカバーにおいて、二輪車に比較的タイトにフィットするスリムな形状にできるようにしながら、二輪車に1人で比較的簡単に装着可能とすることを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0013】

本発明に係る二輪車用のカバーは、二輪車の前輪側を覆うためのフロント部と、前記二輪車の後輪側を覆うためのリア部とを含み、前記フロント部および前記リア部には、それぞれ個別に前記二輪車に装着した状態を保持するための固定手段が設けられている、ことを特徴としている。

【0014】

この構成では、カバーをフロント部とリア部との2つにセパレートしているから、二輪車に装着するときに、一人でも比較的簡単に装着することが可能になる。特に、本発明に係るカバーは、その装着対象となる二輪車が大型自動二輪車である場合に、特に有利となる。そのことに伴い、前記フロント部および前記リア部を二輪車に比較的タイトにフィットするスリムな形状にすることが可能になる。

【0015】

このようにスリムな形状にできることに加えて、前記フロント部および前記リア部を二輪車に装着した状態を前記固定手段により保持できるようにしているから、二輪車に装着した前記フロント部および前記リア部が雨や風等によってばたつくことを抑制できるとともに外れることを防止できるようになる。

【0016】

したがって、本発明に係るカバーは、二輪車に比較的タイトにフィットするスリムな形状にできるようにしながら、二輪車に1人で比較的簡単に装着することが可能になる。

【0017】

ところで、上記カバーにおいて、前記フロント部と前記リア部とは、前記二輪車の前後方向の所定領域でオーバーラップするように設定されている、構成とすることができる。

【0018】

この構成では、前記フロント部と前記リア部とを前記二輪車に装着したときに、例えば前記フロント部と前記リア部とが二輪車の前後方向所定領域で重なり合うことになって、二輪車の前後方向全域を覆うようになる。

【0019】

これにより、前記二輪車が雨や風等に曝されなくなるというカバー本来の保護機能を確実に確保できるようになるとともに、前記二輪車の姿を外側から認識できなくなるなど、盗難防止に役立つようになる。

【0020】

また、上記カバーにおいて、前記フロント部は、その後部および下部が開放されているとともに、前部が前記二輪車の前輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記前輪からシートの前端に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されており、前記リア部は、その前部および下部が開放されているとともに、後部が前記二輪車の後輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記後輪からシートを経てフロントフォークの手前に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されている、構成とすることができる。

【0021】

この構成では、前記フロント部と前記リア部の形状、寸法を特定している。この特定により、前記二輪車に対する前記フロント部および前記リア部の装着状態が明らかになり、前記フロント部と前記リア部とを前記二輪車に装着したときに、前記フロント部と前記リ

10

20

30

40

50

ア部とが二輪車の前後方向所定領域で重なり合う形態が明らかになる。

【0022】

さらに、上記カバーにおいて、前記フロント部の固定手段は、前記後部の開放部分に設けられる胴部絞りベルトと、この胴部絞りベルトの一端側と他端側とを連結可能に当該一端側および他端側に設けられるプラグおよびソケットとを含み、かつ、前記固定手段の使用時には、前記プラグまたはソケットを前記二輪車の前輪と後輪との間の下部空間に前記二輪車の幅方向一方から他方へ向けて差し入れて前記ソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記胴部絞りベルトを前記二輪車の前輪と後輪との間に巻き掛ける状態にする、構成とすることができる。

【0023】

この構成では、前記フロント部の固定手段を特定している。この特定により、前記フロント部の左側構成面と右側構成面とを二輪車に密着させた状態にしやすくなるので、二輪車に装着したフロント部が雨や風等によりばたつくことを抑制する効果ならびに外れることを防止する効果が向上する。

【0024】

さらに、上記カバーにおいて、前記リア部の固定手段は、当該リア部の左側構成面または右側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられる上側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられかつ前記上側のプラグに連結可能とされる上側のソケットと、前記左側構成面または右側構成面の前端の下側に設けられる下側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の下側に設けられかつ前記下側のプラグに連結可能とされる下側のソケットとを含み、かつ、前記固定手段の使用時には、前記上側のプラグまたはソケットを前記二輪車のフロントフォークの左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記上側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前端の上下方向中間部位と前記右側構成面の前端の上下方向中間部位とを前記フロントフォークの長手方向中間部位に巻き付ける状態にし、前記下側のプラグまたはソケットを前記二輪車の前輪の前下部の左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記下側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前下部と前記右側構成面の前下部とを前記前輪の前下部に巻き付ける状態にする、構成とすることができる。

【0025】

この構成では、前記リア部の固定手段を特定している。この特定により、前記リア部の左側構成面と右側構成面とを二輪車に密着させた状態にしやすくなるので、二輪車に装着したリア部が雨や風等によりばたつくことを抑制する効果ならびに外れることを防止する効果が向上する。

【発明の効果】

【0026】

本発明に係る二輪車用のカバーは、二輪車に比較的タイトにフィットするスリムな形状にできるようにしながら、二輪車に1人で比較的簡単に装着することが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【0027】

【図1】本発明に係る二輪車用のカバーの一実施形態で、二輪車に装着した状態を示す斜視図である。

【図2】図1のカバーを二輪車に装着していない状態を示す斜視図である。

【図3】図1においてリア部のみを二輪車に装着した状態を示す平面図である。

【図4】図2のフロント部の縫製前の状態を示す平面展開図である。

【図5】図2のリア部の縫製前の状態を示す平面展開図である。

【図6】本発明に係る二輪車用のカバーの他実施形態で、二輪車に装着した状態を示す斜視図である。

【図7】図6のカバーを二輪車に装着していない状態を示す斜視図である。

【図8】図6においてリア部のみを二輪車に装着した状態を示す平面図である。

10

20

30

40

50

【図 9】図 7 のフロント部の縫製前の状態を示す平面展開図である。

【図 10】図 7 のリア部の縫製前の状態を示す平面展開図である。

【発明を実施するための形態】

【0028】

以下、本発明を実施するための最良の実施形態について添付図面を参照して詳細に説明する。

【0029】

図 1 から図 5 に、本発明の一実施形態を示している。図中、1 は二輪車、2 は二輪車用のカバーを示している。

【0030】

この実施形態では、二輪車 1 として、いわゆるネイキッドタイプと呼ばれるものが例示されている。

【0031】

カバー 2 は、分離されているフロント部 3 とリア部 4 とを組み合わせた構成、つまりツープieces構造になっている。フロント部 3 とリア部 4 とは、二輪車 1 の前後方向の所定領域でオーバーラップするように設定されている。

【0032】

フロント部 3 は、図 1 に示すように、その後部および下部が開放されているとともに、前部が二輪車 1 の前輪 11 に引っ掛けられるような袋形状に形成されていて、二輪車 1 において前輪 11 からシート 14 の前端（燃料タンク 13 の後端）に至るまでの領域を覆うような寸法に形成されている。

【0033】

フロント部 3 の前部は、前から後に向かって斜め上向きに傾斜した形状になっていて、その最上位置からさらに後に向かって下向きに傾斜した形状になっている。

【0034】

このフロント部 3 の前下部には、当該前下部を前輪 11 の前下側部位の外形に倣う形状にするための絞り部 31 が設けられている。この前下部には不図示の前輪ロック部材（チェーン、U 字形ロックあるいはリンク連結部材等）を挿通するための鍵孔ベルト 32 が設けられている。

【0035】

さらに、フロント部 3 には、それを二輪車 1 に装着した状態を保持するための固定手段（符号省略）が設けられている。この固定手段は、胴部絞りベルト 5a、プラグ 5b、ソケット 5c を含む構成になっている。

【0036】

胴部絞りベルト 5a は、フロント部 3 において前開放部分の周縁に取り付けられており、二輪車 1 のエンジン 15 の下側に巻き掛けられるものである。

【0037】

プラグ 5b およびソケット 5c は、ワンタッチで連結または連結解除されるように構成されたものであって、公知の汎用品とされているので、その詳細な説明は割愛する。

【0038】

プラグ 5b は、胴部絞りベルト 5a の左端寄りの所定位置に取り付けられており、また、ソケット 5c は、胴部絞りベルト 5a の右端に取り付けられている。なお、プラグ 5b は、胴部絞りベルト 5a の左端側に対する取り付け位置を任意に変更できるように構成されている。

【0039】

そして、プラグ 5b を二輪車 1 の前輪 11 と後輪 12 との間（エンジン 15）の下部空間に二輪車 1 の幅方向一方（左）から幅方向他方（右）へ向けて差し入れて、ソケット 5c に近づけて連結すると、胴部絞りベルト 5a がエンジン 15 の下側部位に巻き掛けられる状態になる。これにより、フロント部 3 が二輪車 1 に装着された状態で保持される。

【0040】

10

20

30

40

50

リア部４は、図１および図３に示すように、その前部および下部が開放されているとともに、後部が二輪車１の後輪１２に引っ掛けられるような袋形状に形成されていて、二輪車１において後輪１２からシート１４を経てフロントフォーク１７の手前に至るまでの領域を覆うような寸法に形成されている。

【００４１】

このリア部４は、全体的に見て横長の長方体形状に形成されている。このリア部４の前端側は、前から後に向かって斜め上向きに傾斜した形状になっている。

【００４２】

このリア部４の左側構成面４５における前後方向中間部位の下側には二輪車１のサイドスタンド１６を外へ突き出せるようにするためのスタンド孔４１が設けられている。また、左側構成面４５の後寄りの下部には不図示の後輪ロック部材（チェーン、Ｕ字形ロックあるいはリンク連結部材等）を挿通するための鍵孔４２が設けられている。さらに、左側構成面４５および右側構成面４６の各後下部には、当該各後下部およびそれらで挟まれる部位を後輪１２の後下側部位の外形に倣う形状にするための絞り部４３、４４が設けられている。右側構成面４６の絞り部４４の下端側には、前記後輪ロック部材を挿通するための鍵孔４７が設けられている。

【００４３】

そして、リア部４には、それを二輪車１に装着した状態を保持するための固定手段（符号省略）が設けられている。この固定手段は、上側のプラグ６ａおよびソケット６ｂと、下側のプラグ７ａおよびソケット７ｂとを含む構成になっている。

【００４４】

上側のプラグ６ａおよびソケット６ｂと、下側のプラグ７ａおよびソケット７ｂとは、それぞれ互いにワンタッチで連結または連結解除されるように構成されたものであって、公知の汎用品とされているので、その詳細な説明は割愛する。

【００４５】

上側のプラグ６ａは、リア部４の左側構成面４５の前斜辺２１２の長手方向中間部位に取り付けられており、また、上側のソケット６ｂは、リア部４の右側構成面４６の前斜辺２１３の長手方向中間部位に取り付けられている。

【００４６】

具体的には、リア部４の前開放部分の長手方向中間部位に長手方向中間部位が縫合されたベルト６ｃの左端寄りの所定位置に上側のプラグ６ａが取り付けられており、また、ベルト６ｃの右端に上側のソケット６ｂが取り付けられている。なお、上側のプラグ６ａは、ベルト６ｃの左端側に対する取り付け位置を任意に変更できるように構成されている。そして、上側のプラグ６ａとソケット６ｂとを、フロントフォーク１７の長手方向中間部位の前方で連結する。

【００４７】

下側のプラグ７ａは、リア部４の左側の前斜辺２１２の下側に一端側が縫合された長尺ベルト７ｃの自由端寄りの所定位置に取り付けられている。また、下側のソケット７ｂは、リア部４の右側の前斜辺２１３の下側に短尺ベルト７ｄの自由端に取り付けられている。なお、下側のプラグ７ａは、長尺ベルト７ｃの自由端側に対する取り付け位置を任意に変更できるように構成されている。そして、下側のプラグ７ａとソケット７ｂを、前輪１１の前下部の前方で連結する。

【００４８】

このような上下のプラグ６ａ、７ａおよびソケット６ｂ、７ｂにより、リア部４が二輪車１に装着された状態で保持される。

【００４９】

なお、前記したフロント部３およびリア部４の布生地としては、柔軟性及び透湿防水性を有する材料（例えばポリエステル樹脂、あるいはポリエステル樹脂に透湿防水性を有する合成樹脂フィルムを重ね合わせたもの等）とされるが、その他に、前記柔軟性及び透湿防水性を有する材料からなる布生地の裏側に、柔軟性、透湿防水性ならびに車体に傷をつ

けにくい性質を有する材料（例えば合成繊維製の不織布等）からなる裏地を重ね合わせることが可能である。さらに、リア部４において二輪車１のマフラー２０が当たる部位には、前記柔軟性及び透湿防水性を有する材料からなる布生地、耐熱性に優れた布生地（ふっ素系樹脂の織布等）を貼り合わせることも可能である。

【００５０】

このようなフロント部３およびリア部４は、共に、図４および図５に示すような適宜の布生地を裁縫することにより製作される。

【００５１】

具体的に、フロント部３の製作手順を説明する。まず、図４に示す前辺１０１の上下方向（長手方向）の中間点１０２と中間切り欠き１０３の最深位置１０４とを結ぶ仮想直線からなる折り目線１０５を山折りすることにより、当該折り目線１０５よりも上側の面と下側の面とを重ね合わせる。これにより、前記下側の面が縫製後の左側構成面３４となり、前記上側の面が縫製後の右側構成面３５となる。

【００５２】

この状態において、左側構成面３４の前端と右側構成面３５の前端とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合するとともに、中間切り欠き１０３の片半分領域の内縁１０６と残り片半分領域の内縁１０７とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合する。

【００５３】

続いて、図４に示す下側切り欠き１０８の片半分領域の内縁１０９と残り片半分領域の内縁１１０とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合する。さらに、図３に示す後下辺１１１に別体の布生地１１２を縫合して継ぎ足す。

【００５４】

この後、左側構成面３４において中間切り欠き１０３に隣り合う後斜辺１１３と、右側構成面３５において中間切り欠き１０３に隣り合う後斜辺１１４と、前記継ぎ足し用の布生地３８の自由端縁とに対して胴部絞りベルト５ａの長手方向中間部位を縫合するとともに、当該胴部絞りベルト５ａの左側部位および右側部位を通すための輪状のベルト通し３３を縫合する。この段階では、胴部絞りベルト５ａの左端寄りの所定位置にプラグ５ｂが取り付けられていて、胴部絞りベルト５ａの右端にソケット５ｃが縫合されているものとする。

【００５５】

次に、リア部４の製作手順を説明する。まず、図５において、下側（縫製後の後側）に設けられている凹状切り欠き２０１の左辺および右辺にそれぞれ沿う位置で上下方向に延長する仮想直線からなる折り目線２０２、２０３をそれぞれ山折りする。

【００５６】

この状態では、当該２つの折り目線２０２、２０３のうちの左側の折り目線２０２よりも左側の面が縫製後の左側構成面４５となり、右側の折り目線２０３よりも右側の面が縫製後の右側構成面４６となる。

【００５７】

この状態において、左側構成面４５の後辺２０４と右側構成面４６の後辺２０５とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合するとともに、前記後辺２０４の右側部位と前記後辺２０５の左側部位とを凹状切り欠き２０１の内縁に重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合する。

【００５８】

続いて、左側構成面４５の切り欠き２０６の前半分領域の内縁２０７と後半分領域の内縁２０８とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合することにより、絞り部４３を作る。一方、右側構成面４６の切り欠き２０９の前半分領域の内縁２１０と後半分領域の内縁２１１とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合することにより、絞り部４４を作る。なお、右側構成面４６の切り欠き２０９の内縁２１０、２１１の重ね合わせ部分については、部分的に縫合しないようにすることによって、鍵孔４７を作るようにしている。

【００５９】

この後、左側の前斜辺 2 1 2 から右側の前斜辺 2 1 3 に跨る領域にベルト 6 c の長手方向中間部位を縫合する。この段階では、ベルト 6 c の左端寄りの所定位置にプラグ 6 a が取り付けられていて、ベルト 6 c の右端にソケット 6 b が取り付けられているものとする。

【0060】

さらに、左側の前斜辺 2 1 2 の左端に長尺ベルト 7 c の一端側を縫合するとともに、右側の前斜辺 2 1 3 の右端に短尺ベルト 7 d の一端側を縫合する。この段階では、長尺ベルト 7 c の自由端寄りの所定位置にプラグ 7 a が取り付けられていて、短尺ベルト 7 d の自由端にソケット 7 b が縫合されているものとする。

【0061】

次に、上記したフロント部 3 とリア部 4 を二輪車 1 に装着する手順を説明する。

【0062】

まず、準備段階として、二輪車 1 のハンドル 1 8 を左側に目一杯に動かすことによりハンドルロックできる状態にしておいて、サイドスタンド 1 6 を使って左側に傾いた姿勢にする。

【0063】

このような姿勢の二輪車 1 の後輪 1 2 側からリア部 4 の前開放部分を被せることにより、リア部 4 の絞り部 4 3, 4 4 を後輪 1 2 の後下側に引っ掛けるようにしながら、後輪 1 2 からシート 1 4 を経てエンジン 1 5 に至るまでの領域を覆う状態にする。

【0064】

この後、二輪車 1 を直立する姿勢にして、二輪車 1 のサイドスタンド 1 6 をリア部 4 のスタンド孔 4 1 内に差し入れ、それから二輪車 1 を左側に傾いた姿勢に戻す。なお、前記準備段階において、二輪車 1 をそのセンタースタンド（図示省略）を使って直立姿勢にする場合には、サイドスタンド 1 6 をスタンド孔 4 1 内に差し入れるための動作は不要になる。

【0065】

この状態において、リア部 4 の上側のプラグ 6 a を二輪車 1 の 2 本のフロントフォーク 1 7 の左外側から前方に回り込ませるとともに右外側から後方に引き寄せて、ソケット 6 b に近づけて連結する。これにより、図 3 に示すように、ベルト 6 c がフロントフォーク 1 7 の長手方向中間部位に巻き掛けられるようになる。

【0066】

続いて、下側のプラグ 7 a を二輪車 1 の前輪 1 1 の前下部の左側から前方に回り込ませるとともに右側から後方に引き寄せて、下側のソケット 7 b に近づけて連結する。これにより、図 1 に示すように、長尺ベルト 7 c と短尺ベルト 7 d とが前輪 1 1 の前下部に巻き付けられるようになる。

【0067】

このようにした結果、図 3 に示すように、リア部 4 において左側構成面 3 4 と右側構成面 3 5 とがエンジン 1 5 から後輪 1 2 に至るまでの二輪車 1 の側面領域に密着された状態になる。この状態では、リア部 4 が前後左右のいずれの方向に引っ張られても外れなくなる。

【0068】

そして、二輪車 1 の前輪 1 1 側からフロント部 3 の後開放部分を被せることにより、フロント部 3 の絞り部 3 1 を前輪 1 1 の前下側に引っ掛けるようにしながら、ハンドル 1 8 から燃料タンク 1 3 の後端に至るまでの領域を覆う状態にする。このとき、フロント部 3 の最上部がハンドル 1 8 の右側バックミラー 1 9 の上端に引っ掛かった状態になる。

【0069】

この状態において、フロント部 3 のプラグ 5 b を二輪車 1 の前輪 1 1 と後輪 1 2 との間（エンジン 1 5）の下部空間に二輪車 1 の左側から右側へ向けて差し入れて、ソケット 5 c に近づけて連結する。

【0070】

10

20

30

40

50

これにより、胴部絞りベルト 5 a がエンジン 1 5 の下側部位に巻き掛けられるようになる。この状態では、フロント部 3 の左側構成面 3 4 および右側構成面 3 5 が前輪 1 1 に密着されるとともにリア部 4 の左側構成面 4 5 および右側構成面 4 6 の前側領域に密着されるようになるので、フロント部 3 が前後左右のいずれの方向に引っ張られても外れなくなる。

【0071】

このようにして二輪車 1 にフロント部 3 およびリア部 4 を装着すると、図 1 に示すように、フロント部 3 とリア部 4 とが二輪車 1 の前後方向所定領域でオーバーラップする状態になって二輪車 1 の前後方向全域を覆うようになるとともに、フロント部 3 およびリア部 4 の左側構成面 3 4, 4 5 と右側構成面 3 5, 4 6 とが二輪車 1 の前後方向全域に密着する状態になる。

10

【0072】

これにより、二輪車 1 が雨や風等に曝されなくなるというカバー 2 本来の保護機能を確実に確保できるようになるとともに、フロント部 3 およびリア部 4 が雨や風等によりばたつくことを抑制できるとともに外れることを防止できるようになる。その他、二輪車 1 の前後方向全域が隠されることになるので、二輪車 1 の姿を外側から認識できなくなるなど、盗難防止に役立つようになる。

【0073】

ところで、フロント部 3 およびリア部 4 を二輪車 1 に装着した状態では、前記した不図示の前輪ロック部材や後輪ロック部材を装着することが可能であるが、それらの装着動作については、一般的なワンピースタイプのカバーのそれと同様であるので、ここでの説明は割愛する。

20

【0074】

そして、上記フロント部 3 およびリア部 4 を取り外す場合には、フロント部 3 のプラグ 5 b をソケット 5 c から離脱させておいて、フロント部 3 の最上部を斜め上向きにかつ前方に引っ張ることで、比較的簡単に外すことが可能になる。

【0075】

また、リア部 4 についても、下側のプラグ 7 a をソケット 7 b から離脱させるとともに、上側のプラグ 6 a をソケット 6 b から離脱させておいて、リア部 4 の前上側を斜め上向きにかつ後方に引っ張ることで、比較的簡単に外すことが可能になる。

30

【0076】

以上説明したように本発明を適用した実施形態では、カバー 2 をフロント部 3 とリア部 4 との 2 つにセパレートしているから、二輪車 1 に装着するときに、一人でも比較的簡単に装着することが可能になる。そのことに伴い、フロント部 3 およびリア部 4 をその二輪車 1 に比較的タイトにフィットするスリムな形状にすることが可能になる。このようにスリムな形状にできることに伴い、二輪車 1 への装着状態において、雨や風等によってフロント部 3 およびリア部 4 がばたつくことを抑制できるとともに外れることを防止できるようになる。

【0077】

このようなことから、本発明を適用した実施形態のカバー 2 は、二輪車 1 に比較的タイトにフィットするスリムな形状にできるようにしながら、二輪車 1 に 1 人で比較的簡単に装着することが可能になる。

40

【0078】

なお、本発明は、上記実施形態のみに限定されるものではなく、特許請求の範囲内および当該範囲と均等の範囲内で適宜に変更することが可能である。

【0079】

(1) 図 6 から図 10 には、スクータータイプと呼ばれる二輪車 1 に適したカバー 2 を例に挙げている。

【0080】

このカバー 2 についても、分離されているフロント部 3 とリア部 4 とを組み合わせたツ

50

ーピース構造になっている。フロント部 3 とリア部 4 とは、二輪車 1 の前後方向の所定領域でオーバーラップせずに離隔するように設定されている。

【0081】

フロント部 3 は、図 6 に示すように、その後部および下部が開放されているとともに、前部が二輪車 1 の前輪 1 1 に引っ掛けられるような袋形状に形成されていて、二輪車 1 において前輪 1 1 からフロントカウル 2 5 およびセンターカウル 2 6 の前後方向の中間部位に至るまでの領域を覆うような寸法に形成されている。

【0082】

このフロント部 3 は、全体的に縦長の長方体形状に形成されている。フロント部 3 の前部は、前から後に向かって斜め上向きに傾斜した形状になっていて、その最上位置からさらに後に向かって下向きに傾斜した形状になっている。

10

【0083】

このフロント部 3 の前下部は、前輪 1 1 の前下側部位の外形に倣う形状に縫製されていて、この前下部には不図示の前輪ロック部材（チェーン、U 字形ロックあるいはリンク連結部材等）を挿通するための鍵孔ベルト 3 2 が設けられている。また、フロント部 3 の後側には、前開放部分を拡大するためのスライドファスナー 3 6 が設けられている。

【0084】

さらに、フロント部 3 には、それを二輪車 1 に装着した状態を保持するための固定手段（符号省略）が設けられている。この固定手段は、プラグ 8 a、ソケット 8 b を含む構成になっている。

20

【0085】

プラグ 8 a およびソケット 8 b は、互いにワンタッチで連結または連結解除されるように構成されたものであって、公知の汎用品とされているので、その詳細な説明は割愛する。

【0086】

プラグ 8 a は、フロント部 3 の後右下部に一端側が縫合された長尺ベルト 8 c の自由端寄りの任意の位置に取り付けられている。また、ソケット 8 b は、フロント部 3 の後左下部に一端側が縫合された短尺ベルト 8 d の自由端に取り付けられている。なお、プラグ 8 a は、長尺ベルト 8 c の自由端側に対する取り付け位置を任意に変更できるように構成されている。

30

【0087】

そして、プラグ 8 a とソケット 8 b をセンターカウル 2 6 の下側で連結すると、長尺ベルト 8 c と短尺ベルト 8 d とがセンターカウル 2 6 の下側に巻き付けられる状態になる。これにより、フロント部 3 が二輪車 1 に装着された状態で保持される。

【0088】

リア部 4 は、図 7 および図 8 に示すように、その前部および下部が開放されているとともに、後部が二輪車 1 の後輪 1 2 に引っ掛けられるような袋形状に形成されていて、二輪車 1 においてリアカウル 2 7 からシート 1 4 の前端に至るまでの領域を覆うような寸法に形成されている。

【0089】

このリア部 4 は、全体的に見て横長の長方体形状に形成されている。このリア部 4 の前端側は、前から後に向かって斜め上向きに傾斜した形状になっている。

40

【0090】

このリア部 4 の左側構成面 4 5 における前後方向中間部位の下側には二輪車 1 のサイドスタンド 1 6 を外へ突き出せるようにするためのスタンド孔 4 1 が設けられている。また、左側構成面 4 5 の後寄りの下部には不図示の後輪ロック部材（チェーン、U 字形ロックあるいはリンク連結部材等）を挿通するための鍵孔 4 2 が設けられている。さらに、左側構成面 4 5 および右側構成面 4 6 の各後下部は、後輪 1 2 の後下側部位の外形に倣う形状に縫製されている。左側構成面 4 5 の後下端と右側構成面 4 6 の後下端とには、それぞれ前記後輪ロック部材を挿通するための鍵孔 4 2、4 7 が設けられている。

50

【0091】

そして、リア部4には、それを二輪車1に装着した状態を保持するための固定手段（符号省略）が設けられている。この固定手段は、プラグ9a、ソケット9bを含む構成になっている。

【0092】

プラグ9aおよびソケット9bは、ワンタッチで連結または連結解除されるように構成されたものであって、公知の汎用品とされているので、その詳細な説明は割愛する。

【0093】

プラグ9aは、リア部4の前開放部分の右下側に一端側が縫合された長尺ベルト9cの自由端寄りの任意の位置に取り付けられている。ソケット9bは、リア部4の前開放部分の左下側に一端側が縫合された短尺ベルト9dの自由端に取り付けられている。なお、プラグ9aは、長尺ベルト9cの自由端側に対する取り付け位置を任意に変更できるように構成されている。

【0094】

そして、プラグ9aとソケット9bとを、センターカウル26の下側で連結すると、長尺ベルト9cと短尺ベルト9dとがセンターカウル26の下側に巻き付けられる状態になる。これにより、リア部4が二輪車1に装着された状態で保持されることになる。

【0095】

このようなフロント部3およびリア部4は、図9および図10に示すような適宜の布生地を裁縫することにより製作される。

【0096】

具体的に、フロント部3の製作手順を説明する。まず、図9に示す左辺301の長手方向中間点302と右辺303の長手方向中間点304とを結ぶ仮想直線からなる折り目線305を山折りすることにより、当該折り目線305よりも左側の面と右側の面とを重ね合わせる。これにより、前記左側の面が縫製後の前方構成面34aとなり、前記右側の面が縫製後の後方構成面35aとなる。

【0097】

この状態において、前方構成面34aの左側湾曲辺306と後方構成面35aの左側湾曲辺307とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合するとともに、前方構成面34aの右側湾曲辺308と後方構成面35aの右側湾曲辺309とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合する。

【0098】

続いて、図9に示す前方切り欠き310において前半分領域の内縁311と後半分領域の内縁312とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合する。

【0099】

この後、後方切り欠き313における左半分領域の内縁314に短尺ベルト8dの一端側を縫合する一方、後方切り欠き313における右半分領域の内縁315に長尺ベルト8cの一端側を縫合する。この段階では、長尺ベルト8cの自由端寄りの所定位置にプラグ8aが取り付けられていて、短尺ベルト8dの自由端にソケット8bが縫合されているものとする。

【0100】

次に、リア部4の製作手順を説明する。まず、図10において、左側布生地401（左側構成面45に相当）の右辺402を中央布生地405の左辺406の長手方向中間部位に縫合し、右側布生地408（右側構成面46に相当）の左辺409を中央布生地405の右辺407の長手方向中間部位に縫合する。

【0101】

続いて、当該中央布生地405の前側約1/3の領域と後側約1/3の領域とを下向きに折り曲げるとともに、左側布生地401および右側布生地408をそれぞれ下向きに折り曲げる。

【0102】

10

20

30

40

50

この状態において、左側布生地 401 の前辺 403 と中央布生地 405 の左辺 406 における前側約 1/3 の領域とを縫合するとともに、右側布生地 408 の前辺 410 と中央布生地 405 の右辺 407 において前側約 1/3 の領域とを縫合する。

【0103】

さらに、左側布生地 401 の後辺 404 と中央布生地 405 の左辺 406 における後側約 1/3 の領域とを縫合するとともに、右側布生地 408 の後辺 411 と中央布生地 405 の右辺 407 における後側約 1/3 の領域とを縫合する。

【0104】

なお、左側布生地 401 の後辺 404 の左端側と中央布生地 405 の左辺 406 の下端側とを部分的に縫合しないようにすることによって、鍵孔 42 を作るようにしている。また、右側布生地 408 の後辺 411 の右端側と中央布生地 405 の右辺 407 の下端側とを部分的に縫合しないようにすることによって、鍵孔 47 を作るようにしている。

【0105】

続いて、中央布生地 405 の切り欠き 412 の左半分領域の内縁 413 と右半分領域の内縁 414 とを重ね合わせて、この重ね合わせ部位を縫合することにより、リア部 4 の後下部を幅狭にするとともに前方向に湾曲させる。

【0106】

この後、左側布生地 401 の前辺 403 の左端側に短尺ベルト 9d の一端側を縫合し、さらに、右側布生地 408 の前辺 410 の右端側に長尺ベルト 9c の一端側を縫合する。この段階では、長尺ベルト 9c の自由端寄りの所定位置にプラグ 9a が取り付けられていて、短尺ベルト 9d の自由端にソケット 9b が縫合されているものとする。

【0107】

次に、上記したフロント部 3 とリア部 4 を二輪車 1 に装着する手順を説明する。

【0108】

まず、準備段階として、二輪車 1 のハンドル 18 を左側に目一杯に動かすことによりハンドルロックできる状態にしておいて、サイドスタンド 16 で左側に傾いた姿勢にする。

【0109】

このような姿勢の二輪車 1 の後輪 12 側からリア部 4 の前開放部分を被せることにより、リア部 4 の後下部を後輪 12 の後下側に引っ掛けるようにしながら、後輪 12 からシート 14 の前端に至るまでの領域を覆う状態にする。

【0110】

この状態において、リア部 4 のプラグ 9a を二輪車 1 のセンターカウル 26 の下部空間に二輪車 1 の右側から左側へ向けて差し入れて、ソケット 9b に近づけて連結する。

【0111】

これにより、図 8 に示すように、長尺ベルト 9c と短尺ベルト 9d とがセンターカウル 26 の下側に巻き付けられるとともに、リア部 4 において左側構成面 45 の前下部と右側構成面 46 の前下部とがセンターカウル 26 の下側に密着された状態になる。この状態では、リア部 4 が前後左右のいずれの方向に引っ張られても外れなくなる。

【0112】

そして、二輪車 1 の前輪 11 側からフロント部 3 の後開放部分を被せることにより、フロント部 3 の前下部を前輪 11 の前下側に引っ掛けるようにしながら、フロントカウル 25 からセンターカウル 26 の前後方向中間部位に至るまでの領域を覆う状態にして、スライドファスナー 36 を閉じる。このとき、フロント部 3 の最上部がハンドル 18 の右側バックミラー 19 の上端に引っ掛かった状態になる。

【0113】

この状態において、フロント部 3 のプラグ 8a を二輪車 1 のセンターカウル 26 の前下部空間に二輪車 1 の左側から右側へ向けて差し入れて、ソケット 8b に近づけて連結する。

【0114】

これにより、図 6 に示すように、長尺ベルト 8c と短尺ベルト 8d とがセンターカウル

10

20

30

40

50

２６の下側に巻き付けられるとともに、フロント部３の後左下部とフロント部３の後右下部とがセンターカウル２６の下側に密着する状態になる。この状態では、フロント部３が前後左右のいずれの方向に引っ張られても外れなくなる。

【０１１５】

このようにして二輪車１にフロント部３およびリア部４を装着すると、フロント部３およびリア部４が雨や風等によりばたつくことを抑制できるとともに外れることを防止できるようになる。

【０１１６】

ところで、フロント部３およびリア部４を二輪車１に装着した状態では、前記した不図示の前輪ロック部材や後輪ロック部材を装着することが可能であるが、それらの装着動作については、一般的なワンピースタイプのカバーのそれと同様であるので、ここでの説明は割愛する。

【０１１７】

そして、フロント部３およびリア部４を二輪車１から取り外す場合には、フロント部３のプラグ８ａをソケット８ｂから離脱させておいて、フロント部３の最上部を斜め上向きにかつ前方に引っ張ることで、比較的簡単に外すことが可能になる。

【０１１８】

また、リア部４についても、プラグ９ａをソケット９ｂから離脱させておいて、リア部４の前上側を斜め上向きにかつ後方に引っ張ることで、比較的簡単に外すことが可能になる。

【０１１９】

以上説明したように、この実施形態においても、上記実施形態と同様の作用、効果が得られる。

【０１２０】

但し、この実施形態では、二輪車１のセンターカウル２６の前後方向所定領域をフロント部３およびリア部４で意図的に覆うようにしていない。このようにしている理由を説明する。二輪車１がスクータータイプである関係より、仮にフロント部３およびリア部４をセンターカウル２６の前後方向所定領域でオーバーラップさせるようにしていると、雨が降った後で前記オーバーラップ領域の上側に雨水が溜まることが予想される。このような雨水が溜まることを防止するために、フロント部３およびリア部４を意図的にオーバーラップさせずに、センターカウル２６の前後方向所定領域を露呈させるようにしているのである。

【０１２１】

（２）上記実施形態に示した固定手段は、一実施形態であって、これのみに限定されるものではなく、例えば面ファスナー、あるいはそれ以外の公知の部材等とすることが可能である。

【産業上の利用可能性】

【０１２２】

本発明は、二輪車用のカバーに好適に利用することが可能である。

【符号の説明】

【０１２３】

- １ 二輪車
 - １１ 前輪
 - １２ 後輪
 - １４ シート
 - １７ フロントフォーク
- ２ カバー
 - ３ フロント部
 - ３１ 絞り部
 - ３４ 左側構成面

10

20

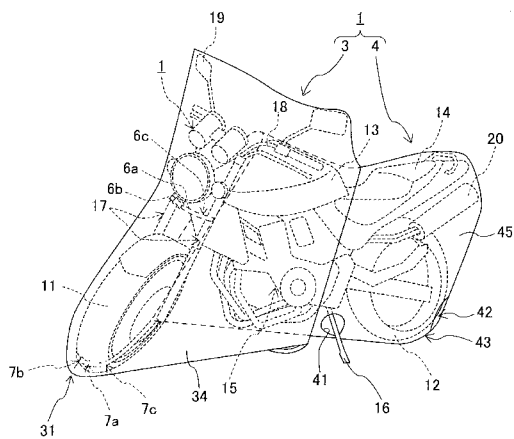
30

40

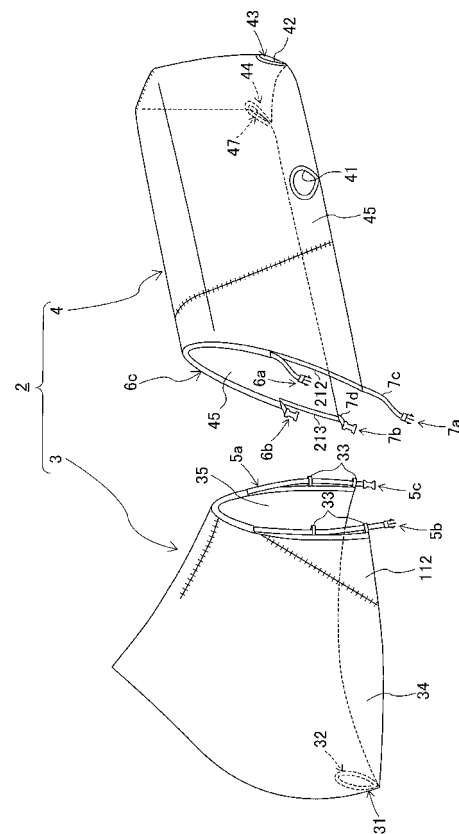
50

- 3 5 右側構成面
- 4 リア部
- 4 3 左側の絞り部
- 4 4 右側の絞り部
- 4 5 左側構成面
- 4 6 右側構成面
- 5 a 胸部絞りベルト
- 5 b プラグ
- 5 c ソケット
- 6 a 上側のプラグ
- 6 b 上側のソケット
- 6 c ベルト
- 7 a 下側のプラグ
- 7 b 下側のソケット
- 7 c 長尺ベルト
- 7 d 短尺ベルト

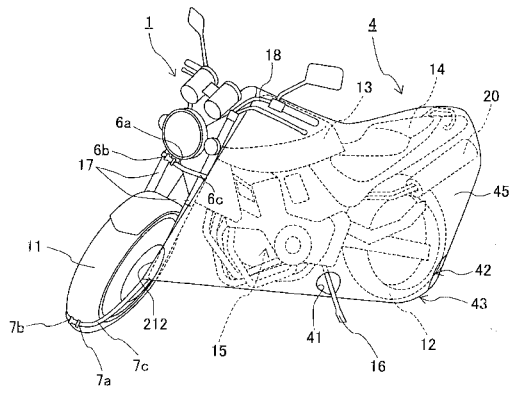
【図 1】



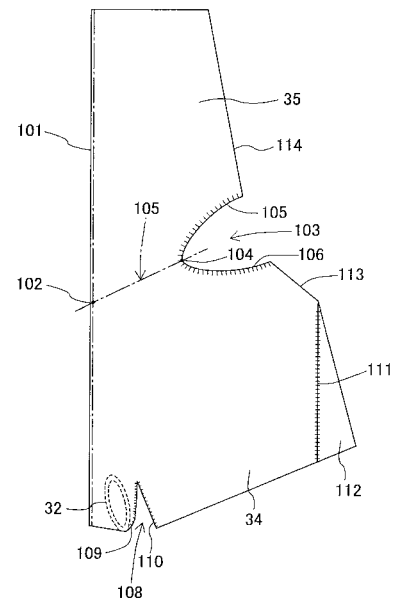
【図 2】



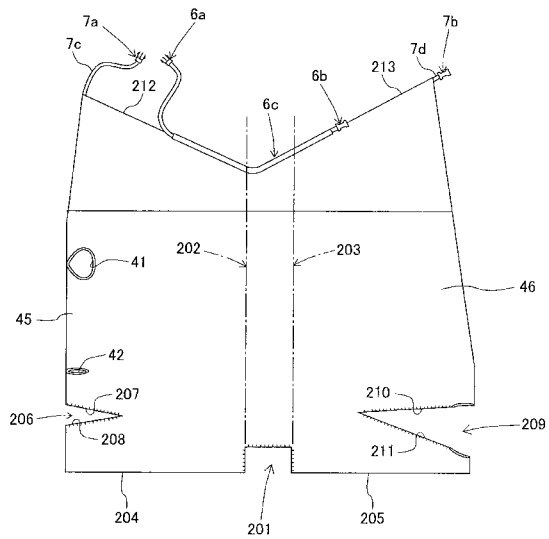
【図 3】



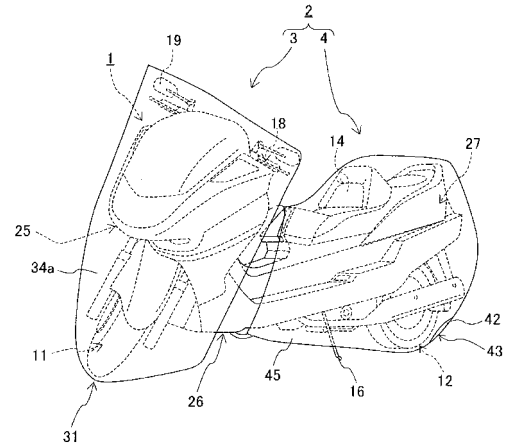
【図 4】



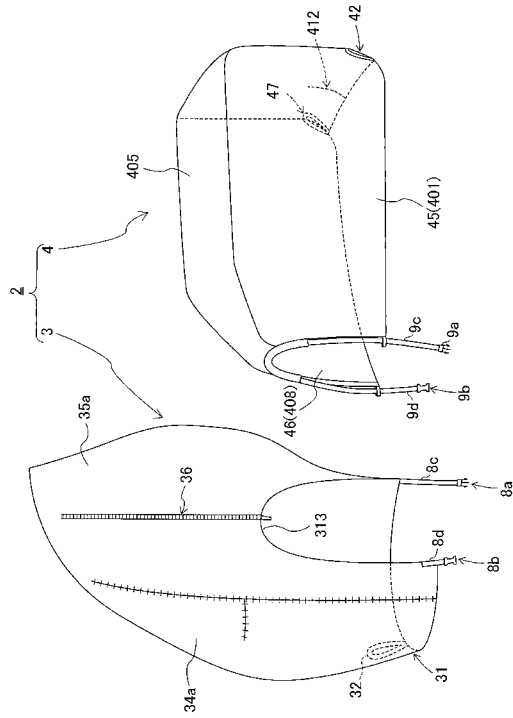
【図 5】



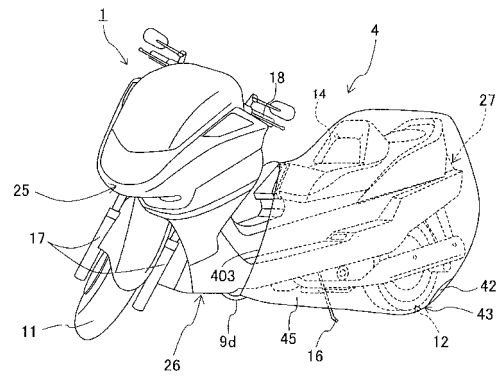
【図 6】



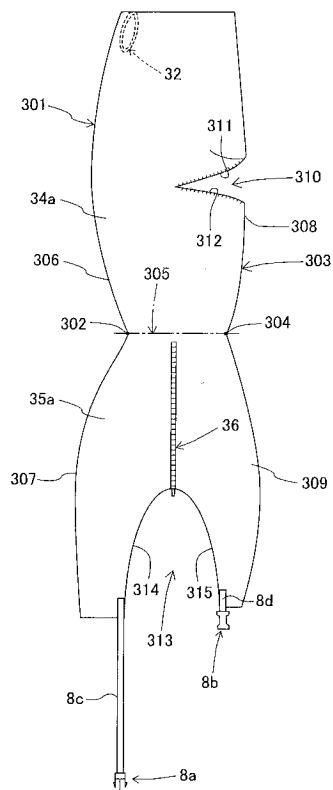
【図 7】



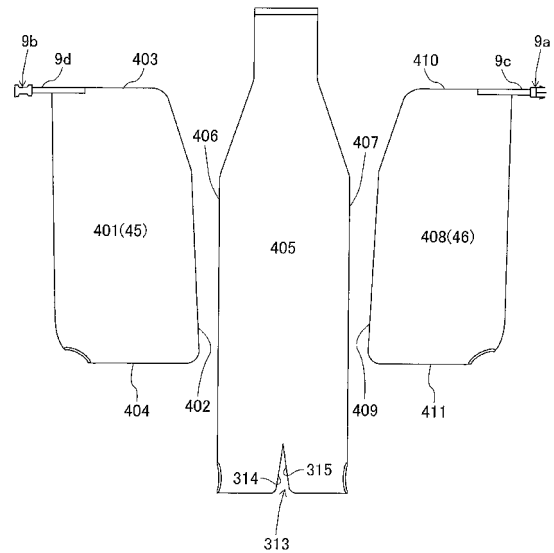
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【手続補正書】

【提出日】平成29年1月11日(2017.1.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

二輪車の前輪側を覆うためのフロント部と、前記二輪車の後輪側を覆うためのリア部とを含み、

前記フロント部と前記リア部とは、前記二輪車の前後方向の所定領域でオーバーラップするように設定されており、

前記フロント部および前記リア部には、それぞれ個別に前記二輪車に装着した状態を保持するための固定手段が設けられており、

前記フロント部は、その後部および下部が開放されているとともに、前部が前記二輪車の前輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記前輪からシートの前端に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されており、

前記リア部は、その前部および下部が開放されているとともに、後部が前記二輪車の後輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記後輪からシートを経てフロントフォークの手前に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されており、

前記リア部の固定手段は、当該リア部の左側構成面または右側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられる上側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられかつ前記上側のプラグに連結可能とされる上側のソケットと、前記左側構成面または右側構成面の前端の下側に設けられる下側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の下側に設けられかつ前記下側のプラグに連結可能とされる下側のソケットとを含み、

かつ、前記固定手段の使用時には、前記上側のプラグまたはソケットを前記二輪車のフロントフォークの左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記上側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前端の上下方向中間部位と前記右側構成面の前端の上下方向中間部位とを前記フロントフォークの長手方向中間部位に巻き付ける状態にし、

前記下側のプラグまたはソケットを前記二輪車の前輪の前下部の左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記下側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前下部と前記右側構成面の前下部とを前記前輪の前下部に巻き付ける状態にする、ことを特徴とする二輪車用のカバー。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の二輪車用のカバーにおいて、

前記フロント部の固定手段は、前記後部の開放部分に設けられる胴部絞りベルトと、この胴部絞りベルトの一端側と他端側とを連結可能に当該一端側および他端側に設けられるプラグおよびソケットとを含み、

かつ、前記固定手段の使用時には、前記プラグまたはソケットを前記二輪車の前輪と後輪との間の下部空間に前記二輪車の幅方向一方から他方へ向けて差し入れて前記ソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記胴部絞りベルトを前記二輪車の前輪と後輪との間に巻き掛ける状態にする、ことを特徴とする二輪車用のカバー。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明に係る二輪車用のカバーは、二輪車の前輪側を覆うためのフロント部と、前記二輪車の後輪側を覆うためのリア部とを含み、前記フロント部と前記リア部とは、前記二輪車の前後方向の所定領域でオーバーラップするように設定されており、前記フロント部および前記リア部には、それぞれ個別に前記二輪車に装着した状態を保持するための固定手段が設けられており、前記フロント部は、その後部および下部が開放されているとともに、前部が前記二輪車の前輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記前輪からシートの前端に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されており、前記リア部は、その前部および下部が開放されているとともに、後部が前記二輪車の後輪に引っ掛けられるような袋形状に形成され、かつ前記後輪からシートを経てフロントフォークの手前に至るまでの領域を覆うような寸法に設定されており、前記リア部の固定手段は、当該リア部の左側構成面または右側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられる上側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の上下方向中間部位に設けられかつ前記上側のプラグに連結可能とされる上側のソケットと、前記左側構成面または右側構成面の前端の下側に設けられる下側のプラグと、前記右側構成面または左側構成面の前端の下側に設けられかつ前記下側のプラグに連結可能とされる下側のソケットとを含み、かつ、前記固定手段の使用時には、前記上側のプラグまたはソケットを前記二輪車のフロントフォークの左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記上側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前端の上下方向中間部位と前記右側構成面の前端の上下方向中間部位とを前記フロントフォークの長手方向中間部位に巻き付ける状態にし、前記下側のプラグまたはソケットを前記二輪車の前輪の前下部の左右一方から前方に回り込ませて左右他方から後方に引き寄せて前記下側のソケットまたはプラグに近づけて連結することにより、前記左側構成面の前下部と前記右側構成面の前下部とを前記前輪の前下部に巻き付ける状態にする、ことを特徴としている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

このようにスリムな形状にできることに加えて、前記フロント部および前記リア部を二輪車に装着した状態を前記固定手段により保持できるようにしているから、二輪車に装着した前記フロント部および前記リア部が雨や風等によってばたつくことを抑制できるとともに外れることを防止できるようになる。しかも、上記リア部の固定手段が前記リア部の左側構成面と右側構成面とを二輪車に密着させた状態にしやすくなるので、二輪車に装着したリア部が雨や風等によりばたつくことを抑制する効果ならびに外れることを防止する効果が向上する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

また、上記のように前記フロント部と前記リア部とを前記二輪車の前後方向の所定領域でオーバーラップさせていれば、前記フロント部と前記リア部とを前記二輪車に装着した

ときに、例えば前記フロント部と前記リア部とが二輪車の前後方向所定領域で重なり合うことになって、二輪車の前後方向全域を覆うようになる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】削除

【補正の内容】